
水切りによる生ごみの減量効果 調査報告書

平成24年3月

埼玉県清掃行政研究協議会

目次

1 本調査の概要	1
1 - 1 調査の目的	1
1 - 2 調査フロー	2
2 . 水切りによる生ごみの減量効果に関する調査	4
2 - 1 アンケート調査	4
2 - 2 個別ヒアリング調査	13
3 水切り器による減量効果	21
3 - 1 水切りの減量効果	21
3 - 2 可燃ごみ中の厨芥類の割合	22
3 - 3 生ごみ減量化量の推定	24
3 - 4 水切り器の減量効果と販売価格の関係	25
3 - 5 ごみ処理経費の削減効果	26
4 生ごみの減量効果が処理施設へ与える影響の検討	27
4 - 1 川越市のごみ処理の現状	27
4 - 2 生ごみの減量効果が処理施設へ与える影響	32
5 普及啓発方法に関する検討	37
6 総括	60

1 本調査の概要

1 - 1 調査の目的

現在、ごみ処理には多大な経費がかけられており、これを削減する最も有効な手段としてごみの減量化がある。特に生ごみに関しては、そのまま排出すると重量の約 80% を水分が占めており、多くの水をごみとして運び、処理していることになる。

一方、家庭で水切りを行うと、手で絞る等で 5～10%、天日干しにすると 70% 近く、重量が減少したとの報告がある。これらを検証するため川越市では、平成 23 年度に市内の 9 世帯を対象に水切りアンケートを実施した。

そこで、この水切りアンケートの結果に加え、先進的に生ごみの水切りの普及啓発に取り組まれている自治体の事例等を収集し、検討することにより、生ごみの水切り方法別の減量効果や効果的な普及啓発方法の検討を行うことを目的とする。

1 - 2 調査フロー

本調査の検討内容は以下に示すとおりであり、調査検討フローは図 1 - 1 に示すとおりとなる。

(1) 水切りによる生ごみの減量効果に関する検討

まず、全国の中核市(41市)を対象にアンケート調査を実施し、現状での水切りに関する減量効果や取組事例等を把握した。

次に、川越市の調査した9件の水切りモニターデータに加え、先進的に取組みを進めている自治体の報告などを参考とし、水切りによる生ごみの減量効果について検討した。

また、県内及び中核市の分別状況及び組成調査の結果と合わせ、水切りによる生ごみ減量効果について算出した。

(2) 生ごみの減量効果が処理施設へ与える影響の検討

川越市が平成22年度に実施した家庭ごみ組成調査結果を整理し、ごみ組成の季節的な変動について検討した。そして、これらのごみ組成を踏まえ、水切りにより生ごみ中の水分が減少した場合に、それが焼却施設等へ及ぼす影響(焼却量や発熱量)について検討した。

(3) 普及啓発方法に関する検討

これまで、川越市が実施してきた普及啓発方法に関する反省点等を踏まえ、先進的に生ごみの水切りの普及啓発に取り組んでいる自治体の事例等を参考に、効果的な普及啓発方法について検討した。

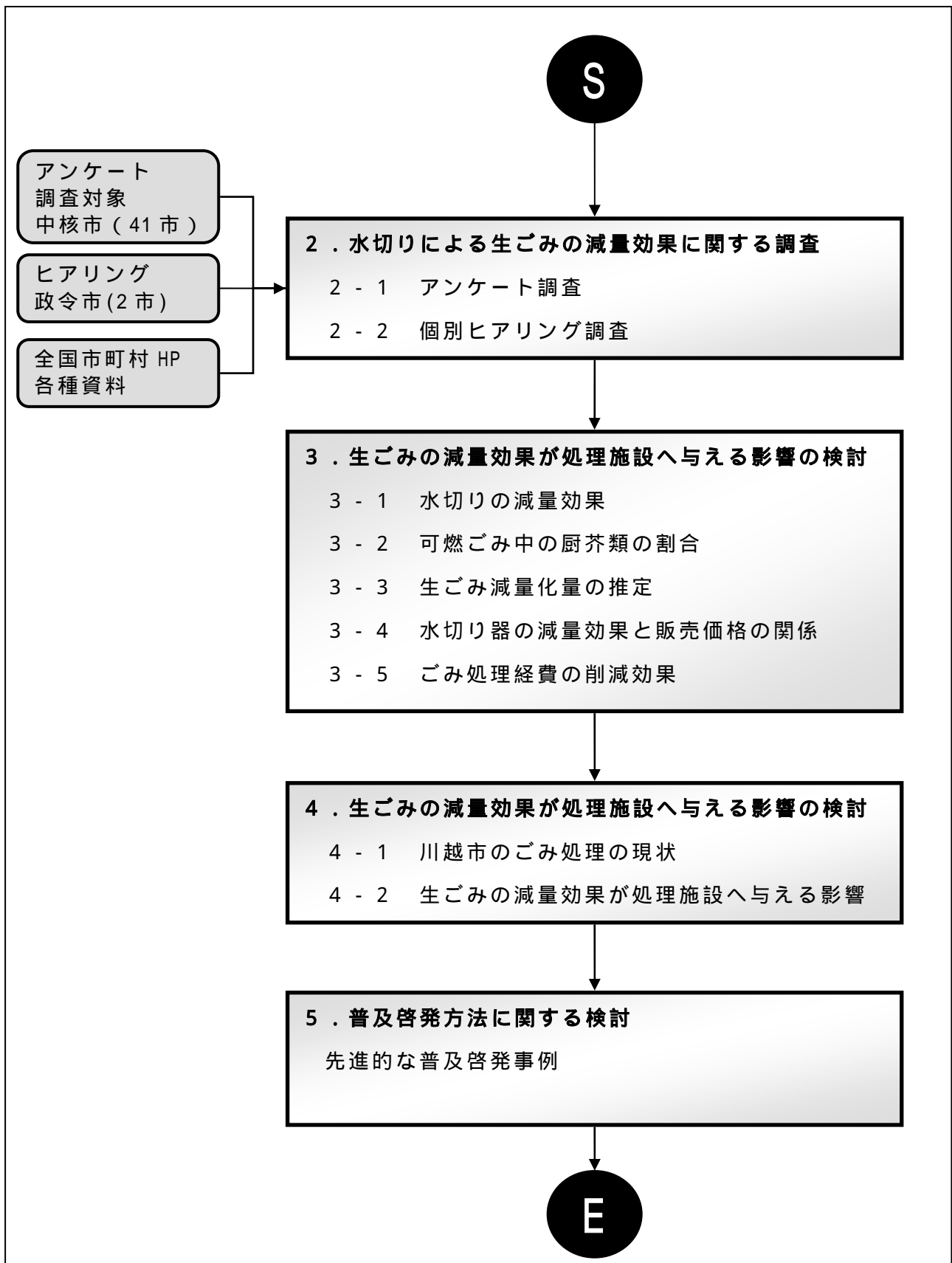


図 1 - 1 調査検討フロー